

血液浄化療法部

■ スタッフ

部長		片山 鑑
副部長		村田 智博
医師数	専任	2名
	兼任	7名
看護師数		7名
臨床工学技士		3名

■ 血液浄化療法部の特色

慢性腎不全に対する血液透析および腹膜透析を行っています。特に、腎不全患者が入院中に安心して検査や治療を受けられるよう、担当主治医と協力しながら、医師・看護師・臨床工学技士によるチーム医療を実践しています。さらに難病や重症疾患に対する血漿交換、免疫吸着療法、白血球除去、持続血液透析濾過（CHDF）などの血液浄化も積極的に行っています。術後や重症患者に生じた急性腎不全には、全身状態に応じた透析や CHDF を ICU スタッフと協力しながら ICU 管理の一環として行っています。

■ 診療体制と実績

1. 業務体制

下記の治療を行なっています。

1) 血液透析

血液透析導入、入院透析患者の維持透析、内シャント管理を行っています。ベッド数は 8 床で、外来での維持血液透析は原則行っておりません。透析患者が手術や血管造影検査のため入院された際、担当主治医と協力して入院中の安全な血液透析を提供しています。2015 年より在宅血液透析を開始しました。

2) 腹膜透析

患者自身の自立や社会復帰、QOL 向上の観点から、腹膜透析を腎代替療法の中でも重要治療法の 1 つと位置付け、積極的な導入と維持を行っています。最近、重症心不全合併腎不全患者にも腹膜透析による全身管理を循環器内科と協力して行っています。

3) 血液浄化療法

重症疾患に対する ICU での持続血液透析濾過（CHDF）、各種難病に対する血漿交換や白血球除去、

LDL アフェレーシスや免疫吸着療法など、担当主治医と協力して積極的な血液浄化療法を展開しています。

4) その他

毎週金曜日に透析カンファレンスを行っています。担当主治医、看護師、臨床工学技士を交えて、入院中の検査や治療、手術に対応した安全な透析医療を提供するため、情報の共有を行っています。

保存期腎不全患者に対し、腎不全治療（血液透析、腹膜透析、腎移植）へ円滑に移行できるよう、医師・看護師を中心としたチームを作り、患者自身が自分にあつた腎代替療法を選択できるサポートを行っています。より満足度の高い治療法の選択を目指しています。

2. 診療実績

2021 年 1 月 1 日～12 月 31 日の診療実績

維持血液透析患者	339 名
新規血液透析導入	30 名
在宅維持血液透析患者	1 名
維持腹膜透析患者	22 名
新規腹膜透析導入	6 名
血漿交換	20 名
血漿吸着	3 名
持続血液透析濾過	69 名（うち救急 37 名）
顆粒球除去	7 名
エンドトキシン吸着	2 名
活性炭吸着	0 名
腹水濾過濃縮	18 名

■ 今後の展望

患者中心の透析医療を積極的に行っていきます。具体的には、

- 1) 末期腎不全時に、患者自身で腎代替療法を選べるチーム医療サポート体制の確立
- 2) 透析患者の QOL 向上、社会復帰のサポート
腹膜透析や在宅血液透析を展開していきます。
- 3) ICU 入院中の重症患者に対する血液浄化療法
救命率向上ため、血液浄化療法の選択や、施行のタイミングなどについて ICU スタッフと協力して検証を行っていきます。

http://www.hosp.mie-u.ac.jp/section/bumon/ketsueki_jouka/